
同窓会だより

同窓会長新任挨拶

会長 有松 美紀子



私は、有松 美紀子と申します。6代目の初の女性会長として就任致しました。女性としての感性だけでなく、家庭と仕事との両立、出産、育児、介護や様々な役員経験から得られ

ました知識や情報と連携力を用いて会務を執行して参りたいと思います。

現在、歯学科と口腔生命福祉学科を合わせた同窓会員数は2,600名を超え、全国のみならず海外でも活躍しています。

特筆すべきことの第1は、女性会員の増加（毎年卒業生の3分の2は女性）です。

第2は、会員の活躍の場が、従来のように歯科医療関係のみならず、行政、福祉、マスコミ、美容等多職種に及んでいるということです。

第3は、会員の高齢化と大学や同窓会への帰属意識の薄れによる同窓会離れの問題があります。

これらを受けまして同窓会のサービスを今まで以上に会員一人一人が納得して頂けるように工夫し、サービスの原資となる会費納入をお願いして参りたいと思います。準会員である学生さん、研修歯科医師、同窓会員のみならずご家族の方々にも親しみをもって頂ける組織作りと運営が目標です。

また、会員一人一人が自分が少しでも役に立てる立場になったならば他の方の笑顔のためにできることを進んで行って頂ける風潮になるように自ら率先して参りたいと思います。

今後も紙面をお借りし同窓会のサービス事業を

お伝えして参りますので、ご意見ご感想などをお寄せください。どうぞ、宜しくお願い致します。

同窓会における慶事

副会長 野内 昭宏

同窓会では慶事があった場合の内規を決めており、それに基づいて表彰等を行っております。昨年度から今年度初めにかけて、非常に多くの慶事がありましたので、ご報告します。

長年にわたり学生の教育に携われてきて、平成28年3月末日をもってめでたく定年退職を迎えられた 朔 敬教授（口腔病理学）、織田公光教授（口腔生化学）、新垣 晋准教授（組織再建口腔外科学）の3人の先生方に、同窓会からお祝いの金一封を差し上げました。

また、学長や教授に就任された下記の先生方にはお祝いの金一封を、また、デンタルや学業で優秀な成績を取めた学生4名に対して、表彰状と副賞を差し上げました。

- ・山村 千絵 先生（歯学科15期）
新潟リハビリテーション大学学長就任
- ・山川 智子 先生（歯学科25期）
長岡大学教授就任
- ・本間 志保 先生（歯学科26期）
梅花女子大学教授就任
- ・北川 純一 先生（歯学科28期）
松本歯科大学教授就任
- ・佐藤 拓一 先生（歯学科19期）
新潟大学医学部保健学科教授就任
- ・芳澤 享子 先生（歯学科20期）
松本歯科大学教授就任



- ・竹澤 みなみ さん（現歯学科6年生）
「第47回日本歯科学学生総合体育大会ゴルフ部門
女子個人優勝（5連覇中）」
- ・真喜志 佐奈子 さん（歯学科46期）
「新潟大学学生表彰（IADR Hatton Awards
日本代表2015年度最終候補者）」
- ・赤塚 眞奈 さん（口腔生命福祉学科8期）
「新潟大学学業成績優秀者奨学金授与」
- ・浅利 早紀 さん（口腔生命福祉学科9期）
「新潟大学学業成績優秀者奨学金授与」



同窓会からのお祝いを受け取られる芳澤教授



定年退職のお祝いを受け取られる朔教授



表彰を受けた真喜志さん



表彰を受けた浅利さん

「歯科における医療安全管理対策 –事例から学ぶ医療事故の対応–」を聴講して

歯学科33期生 石井賢紀

私は卒業して13年病院の一般歯科に勤務しています。今まで抜歯後出血や抜歯後感染などの偶発症は経験しましたが、幸い訴訟に発展するような事故は起こさずに来ました。何かあってもすぐ内科で診てもらえるという気持ちで診療していました。しかし、今回のセミナーを聴講して、たまたま運が良かっただけで、医療訴訟とは常に隣り合わせではないかという気がして怖くなりました。

判決で患者側が勝つ確率は約22.6%とのこと。結局、説明不足、患者さんの理解不足が医療訴訟に発展するとつくづく思いました。私自身しっか





プレートを新たに加え、歯学科1期生～46期生、口腔生命福祉学科1期生～9期生のネームプレートを掲示してもらいました。

このネームプレートが、卒業生の皆さんには母校で学んだ証しに、在校生の皆さんには卒業への士気の向上になれば幸いです。歯学部にお立ち寄りの際は是非、歯学部4階渡り廊下のネームプレートへ足をお運びください。



第7回研修歯科医支援塾開催

同窓会 準会員・研修歯科医支援部

平成28年5月26日（木）17時30分から18時30分まで、大学病院のアメニティーモール内のセミナー室にて「第7回研修歯科医支援塾」を開催致しました。この支援塾は、「研修歯科医の進路決定やワークライフバランスの参考に資する」ことを目的としてスタートしたもので、演者は大学院進学者や大学病院勤務医、一般診療所勤務医、開業医等と様々です。同窓会の事業として開催していますが、本学卒業でない（同窓でない）他大学卒業の研修歯科医にも、平等に門戸が開かれています。

今回は、大学院に進学し留学経験もある江口香里先生（歯学科41期生、生体歯科補綴学分野）と、一般診療所勤務後に開業された小熊崇泰先生（同38期生）のお二人に講演して頂きました。

進路決定の時期、情報、理由や現在の仕事と生活の様子、将来の展望等の他、江口先生からは留学の楽しさ、有意義さを、小熊先生からは開業時の大変さとトラブル、そして、その解決法等もお話して頂きました。

出席した研修歯科医さんたちは大変熱心に聞かれ、質疑応答も活発に行われました。閉会した後も演者お二人のご厚意により、遅い時間まで相談会が行われていました。

研修歯科医は、大学卒業、国試合格後、慌ただしく研修に入り、毎日の仕事をこなすことで精一杯です。研修修了後の進路決定をするための時間や情報が乏しいのが実情ですので、毎回行う開催後のアンケート結果では、ほとんどの方が満足だったと答えてくれています。

今後は、時間的に余裕のある学生のうちに聞いて頂いたり、また、保護者の方にも出席して頂けるように検討してまいりたいと思います。

ご意見、ご希望等がありましたら同窓会事務局までお寄せください。



